

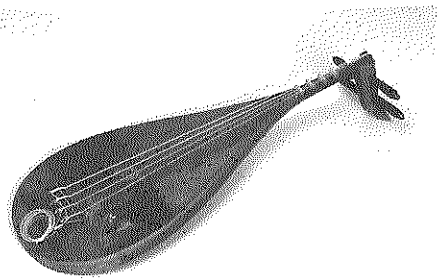
## テーマ展

## 日本の楽器・琵琶—井伊家伝来雅楽器から—

平成 21 年 (2009 年) 12 月 3 日 (木) ~ 12 月 22 日 (火) 展示室 1

井伊家伝来の琵琶は29面もの多くを数えます。この中から、鎌倉～江戸時代の代表作を紹介するとともに、撥や楽譜などもあわせて展示します。

ギャラリートーク 12月5日(土) 午後2時～ 学芸員 高木文恵



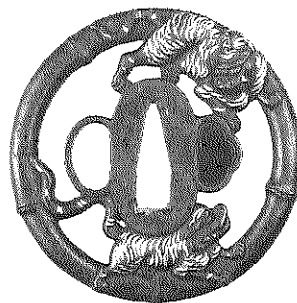
## テーマ展

## 竜虎—寅年にちなんで—

平成 22 年 (2010 年) 1 月 1 日 (金・祝) ~ 2 月 3 日 (水) 展示室 1

新年の干支は寅です。現代では馴染み深い動物となった虎ですが、元来国内には生息していませんでした。しかし、その強さと毛皮の美しさから日本でも古来より好まれ、虎をモチーフとする多くの美術工芸品が作られています。本テーマ展では、勇猛さで並び称される竜とともに、新年の幕開けを寿ぎます。

ギャラリートーク 1月9日(土) 午後2時～ 学芸員 坪内広子



## 直弼発見! 巻の10

## 弥千代の雛と婚礼調度

平成 22 年 (2010 年) 2 月 6 日 (土) ~ 3 月 9 日 (火) 展示室 1

「井伊直弼と開国150年祭」にちなんだシリーズ「直弼発見!」の最後、雛祭りのシーズンは、井伊直弼の愛娘弥千代の雛道具の一挙公開を行います。弘化3年(1846)、埋木舎で暮らす直弼の二

女として生まれた弥千代は、安政5年(1858)譜代大名筆頭井伊家の姫として、同じく溜詰大名であった高松藩主松平頼胤の跡継ぎ頼聡に嫁ぎました。その婚礼の際に持参した雛道具85件と現存する婚礼調度をあわせて展示します。華やかで愛らしい道具の数々に、弥千代を思う直弼の親心を感じていただけたらと思います。

ギャラリートーク 2月6日(土) 午後2時～ 学芸員 小井川理



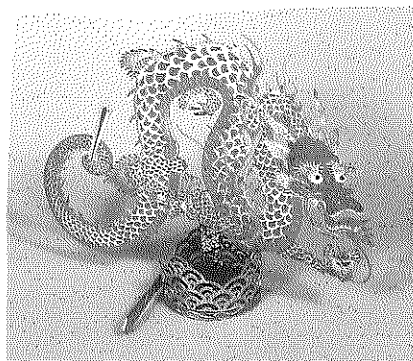
## テーマ展

## 井伊家伝来・能の小道具

平成 22 年 (2010 年) 3 月 12 日 (金) ~ 4 月 13 日 (火) 展示室 1

能の小道具は、面や装束と同じように必要に応じて使われますが、あまり注目されることはありません。しかし、時には場面設定を表現するなど演出に大きく関わることもあります。本展では、井伊家15代直忠が収集した扇や太刀、冠り物などの多様な小道具を中心に、能の幽玄の世界に迫ります。

ギャラリートーク 3月13日(土) 午後2時～ 学芸員 降矢淳子



# 新野古拙—幕末彦根の文化人—

研究余録

金亀玉鶴

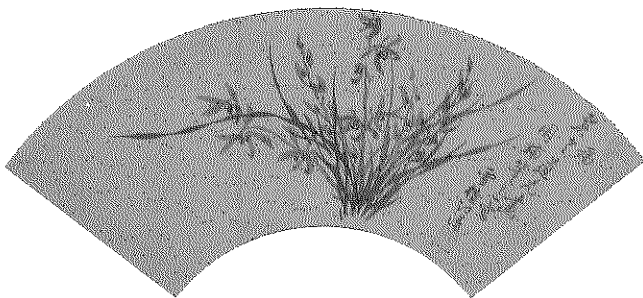


新野古拙(1808~75)は、文化5年(1808)、井伊家11代直中(1766~1831)の10男として誕生しました。12代直亮(1794~1850)と13代直弼(1815~60)とは、それぞれ異母兄弟の関係にあります。

幼名は茂之進、生後間も

なく筆頭家老木侯守前(きまた)の養子となって守業と称し、その後中守と改名します。文政3年(1820)に守前の子・守易の養子総領となり、同5年に新知1,000石を与えられて家老職加判同意となりました。文政8年(1825)には家老職家判となり、翌年3月に大隅と改称、その頃より病を患い、文政13年(1830)には家老加判を免じられ、併せて木侯家の分家として新野左馬助の名跡相続を命じられ、新野大隅矩明となりました。天保13年(1842)に左馬助親良と改名、嘉永4年(1851)正月に家老役に就任、文久2年(1862)8月には1,000石加増されて知行2,000石となり、同月に古拙と改称しています。

以上、若い頃には病弱のために複雑な履歴だったが、後には幕末期の藩を支えた重要な人物の1人であったことが分かります。



蘭図 新野古拙筆

一方で古拙は、画をよく描いていたようです。そして、庶子時代の直弼との密接な交流があったようで、直弼から画の制作依頼を受けています。

例えば、弘化元年(1844)3月8日、国学者・長野義言(ながのよしとき)の号弘めの会が催されますが、その際、直弼は、尊敬する師である義言に画を贈ろうと、その前年に古拙に画を依頼しています。義言の号「桃之舎(もものかや)」にちなみ、注文したのは桃の画でした。

また、直弼が、同年11月18日付で従兄弟(せつせん)宛てた手紙では、摂専に古拙の画の仲介をしている様子が窺えます。そして、古拙の画を「近此大ニ上手めきて」と評し、彼が専ら山水図を描いていた旨も併せて記されています。この時古拙は37歳。この時期、病のために制作が進まなかったようで、3月になっても摂専の手に作品が渡ることがありませんでした。

古拙が描いた現存作品は、決して多くはありません。管見の範囲で確認できるのは数点のみで、それらに共

通するのは、文人画風の画であること、筆致が確かなこと、画に詩文が添えられていることです。画だけでなく、詩作も得意としていたということでしょう。

作例のひとつとして山水図をご紹介します(図1)。何層にも重なった山や岩、そこに根を張って林立する木々。垣間見える人家の方向に足を運ぶ橋の上の高士、釣りをする人の姿も見えます。

画面向かって左上には、賛が記されています。

雪登江邨景已新 梅花呈咲柳香頻  
行吟(吟)却怕詩多料 野鳥鳴、又啜春

梅の花が咲き、野鳥がさえずる静寂な春のひとつきを詠んでいます。世俗を離れた境地で詠まれた漢詩か

らは、その画風とともに、彼の確かな文人意識を見ることができます。

古拙は、嘉永2年(1849)6月に長野義言の門人となっていますが、この入門には、既に入門していた直弼の強い勧めがあった可能性が指摘できます。

古拙の存在は、江戸時代末、彦根藩主庶子や上級藩士の文化活動や相互の文化的交流を考える上で重要な鍵となると言ってもよいでしょう。

今後、彼の作品が新たに確認されることを期待します。

(高木文恵)



山水図 新野古拙筆

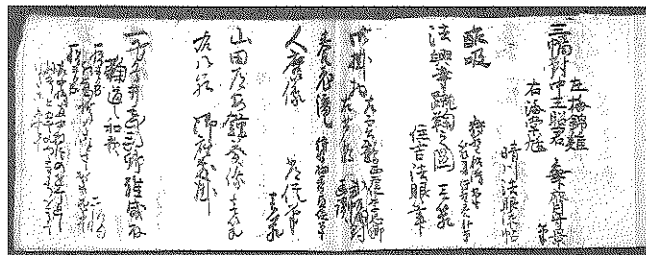
## 彦根表下り 御懸物留下帳

ここで紹介する資料は、表紙に「嘉永七寅年九月四日 御懸物留下帳」とあり、朱で「彦根表下り」と記されています。久隅守景筆の三副対の画や飛鳥井雅威筆の和歌の書など、江戸から彦根へ移動させた計50余点の掛幅を書き連ねたものです。

言うまでもなく、江戸時代には車や電車は存在しませんが、道具類は、我々が想像するより頻繁に江戸と彦根の藩邸を行き来していたようです。この帳面に限らず、種々の記録から道具の移動の跡が確認できます。

嘉永7年(1854)当時直弼は40歳、ペリー来航を初めとする海外対策問題などで揺れ動いていた年です。そのような中、直弼は、5月に江戸を発して就封の途につき、翌年8月に参勤のために彦根を発するまでの約1年3ヶ月、彦根を拠点としました。

この帳面に記載された掛幅は、直弼の帰国にあたって必要と考えられたものなのでしょう。中には、「御座敷掛」「御茶掛」という言葉も見られます。その筆跡から、直弼直筆とみられ、道具の選定に自らが積極的に関わった可能性を指摘することができます。



\*本作品は、12月4日～21日の期間、特集コーナー「直弼のこころ」で展示します。

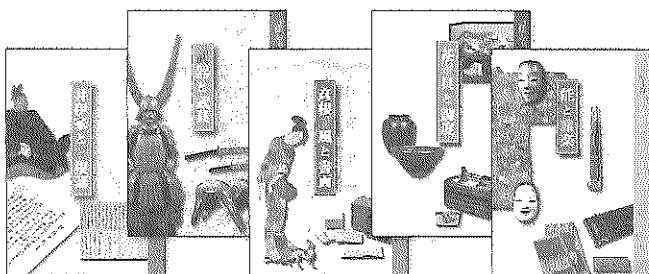
## 刊行物のご紹介

## 彦根城博物館名宝図録

## 『“ほんもの”との出会いー井伊家伝来の名宝ー』

当館は、彦根藩主井伊家に伝来した美術工芸品や古文書を中心に、7万件にのぼる史料を所蔵しています。本図録では、特にその中から、美術的に優れた作品や歴史上重要な資料を選んでご紹介しています。

井伊家や彦根藩の歴史を伝える古文書について解説した「井伊家と彦根藩」をはじめ、井伊家伝来の美術工芸品をジャンル別にまとめた「武器と武具」「彦根屏風と書画」「茶道具と調度」「能と雅楽」の5冊に分けて作成しましたので、お好きな巻だけお買い求めいただくこともできます。価格は各700円。



## 講座のお知らせ

## 平成21年度 大名カルチャー学講座

## 「道具帳をひもとくー大名道具全貌解明に向けてー」

大名家に伝来した諸道具を記録した帳面を、「道具帳」「蔵帳」などと呼びます。言わば、大名家の「お宝」帳なのですが、道具帳は、大名がどのような道具を持っていたかだけではなく、それらの道具の価値や意味をどのように認識し、取り扱っていたかを伝えてくれる資料でもあります。

平成21年度の名大カルチャー学講座は、平成20年度からスタートした、道具帳を素材とした大名道具の基礎的研究の成果の一端をご紹介します。ふだんの展示ではなかなか目にすることのない道具帳の魅力に触れ

## 彦根藩士の履歴史料

## 『彦根藩史料叢書 侍中由緒帳 10』

当館では、平成5年度より順次、彦根藩士の履歴史料「侍中由緒帳」全文を活字化して刊行していますが、このたび、第10巻を刊行しました。

「侍中由緒帳」は、元禄4年(1691)、彦根藩井伊家4代井伊直興の命令により作成された彦根藩士の由緒経歴を記した台帳で、重要文化財「彦根藩井伊家文書」のうちの1史料です。彦根藩の政治組織の変遷もうかがうことができ、彦根藩の歴史の基本史料であるとともに、近世武士の制度史・家族史・生活史研究の一級史料と高く評価されています。

価格は3,000円。第1～9巻の価格についてはお問い合わせください。

いずれの刊行物も、当館ミュージアムショップまたは郵送で購入いただけます。郵送での購入を希望される方は、ミュージアムショップ(TEL: 0749-22-6100)へお問い合わせください。

てみませんか。

- 日時： 第1講 2月27日(土)  
第2講 3月6日(土)  
両日とも14:00～15:30
- 内容： 第1講 「道具帳とは何か」  
第2講 「甲冑・茶道具の伝来ー近代編ー」
- 講師： 本館学芸員
- 会場： 本館講堂
- 資料代： 100円

\*講座のみに参加される場合は観覧料は不要ですが、展示をご覧になる場合には別途観覧料が必要です。  
\*事前の申込は不要です。当日会場にお越しください。

## スケジュール

12月	1月	2月	3月
<b>5±</b> ギャラリートーク 「日本の楽器・琵琶 —井伊家伝来雅楽器から—」  <b>19±</b> 古文書のみかた(中級)③	<b>9±</b> ギャラリートーク 「竜虎—貞年にちなんで—」  <b>16±</b> 古文書のみかた(中級)④	<b>6±</b> ギャラリートーク 「弥千代の雛と婚礼調度」  <b>20±</b> 古文書のみかた(中級)⑤  <b>27±</b> 大名カルチャー学講座①	<b>6±</b> 大名カルチャー学講座②  <b>13±</b> ギャラリートーク 「井伊家伝来・能の小道具」  <b>20±</b> 古文書のみかた(初級)⑥
テーマ展 「日本の楽器・琵琶 —井伊家伝来雅楽器から—」 12/3木～12/22火 休館 12/25～12/31	テーマ展 「竜虎—貞年にちなんで—」 1/1金～2/3水	特別展 直弼発見! 巻の10 「弥千代の雛と婚礼調度」 2/6土～3/9火	テーマ展 「井伊家伝来・能の小道具」 3/12金～4/13火

## 展示

“ほんもの”との出会い —井伊家伝来の名宝を中心に80点あまりを展示—

◎特集コーナー「直弼のこころ」

\*12/22～24、2/3～5、3/9～11は展示者のため一部閉室

## 利用案内

彦根城博物館の建物は、藩の政庁であった表御殿を復元したものです。展示室のほか、大名の居間や茶室・庭園などを江戸時代の姿ながらに再現した木造棟を公開、また、江戸時代の能舞台が残り、現在も能・狂言の公演などに使用されています。



**開館時間** 午前8時30分～午後5時  
(入館は午後4時30分まで)

**休館日** 12月25日～31日

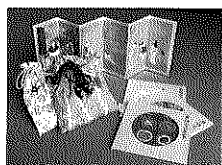
※このほか、展示替のため一部展示室を休室していることがあります。

**観覧料** 博物館のみの観覧券：一般500円/小・中学生250円  
博物館・彦根城・玄宮園のセット券：一般1,000円/小・中学生350円(いずれも30名以上の団体割引があります。)

**交通** JR東海道本線(琵琶湖線)、近江鉄道本線「彦根駅」から徒歩15分  
名神高速道路「彦根I.C.」から車で10分

## ミュージアムショップ

展示図録や関連書籍、絵はがき、井伊家伝来裂をデザインしたハンカチなど、各種ミュージアムグッズを販売しています。



## 薄茶席

薄茶席コーナーでは、江戸時代の能舞台を眺めながら落ち着いた雰囲気でお茶をいただけます。

一服(お菓子付き) 500円



## 『ふるさと彦根応援寄附』にご協力ください

彦根市では、ふるさと納税へのご協力をお願いしています。彦根らしい魅力のある6事業の中から、寄附金をどの事業に使うかを指定できます。

### 事業例

#### ◎ふるさとの誇り保存整備事業

国宝や重要文化財の建造物・石垣の保存整備、名勝玄宮楽々園の保存整備、武家屋敷や町家等の購入・保存修理・活用事業など

#### ◎みんなのひこにゃん応援事業

ひこにゃん遠征費用、ひこにゃんイベント参加費用、ひこにゃんお手入れ費用など

### ご寄附をいただいた方には…

彦根城博物館や彦根城、玄宮園などに1年間無料でご入場いただける「年間パスポート」をお送りします。

※パスポートは縦54mm×横86mm、プラスチック製です。寄附された方のお名前等を印字してお渡します。



### 寄附のお申込みは…

1口5千円からとなります。彦根城博物館・彦根城管理事務所・彦根市役所1階まちづくり推進室でお申込みください。

### ふるさと彦根応援寄附の問い合わせ先 彦根市役所まちづくり推進室

TEL: 0749(30)6117 FAX: 0749(22)1398  
<http://www.city.hikone.shiga.jp/kikakushinkobu/furusato/index.html>